

## 教育と福祉の連携の広がり

生涯発達研究所長 山本理絵

近年、障害、虐待、貧困、いじめ、不登校、非行などの問題が複雑に絡み合い、深刻になっており、教育分野と福祉分野が連携して取り組んでいく必要のある課題が広がってきています。それと同時に、各研究分野のこれまでの研究成果に基づきながら、教育や福祉の課題についての学際的な研究が進められています。

本号の特集は「スポーツと生涯発達」で、障害者スポーツの問題や、介護福祉・健康づくりと体育スポーツ科学の関連について紹介しています。これらのテーマは、比較的最近、研究されるようになってきた分野であり、その現状と研究動向を知ることができます。

また、本研究所が現在取り組んでいる研究プロジェクト「困難を抱える子ども・若者に対する地域協働による発達支援に関する総合的研究」の一環として、“発達障がいフォーラム”での講演内容「発達障がいと虐待」を掲載しました。発達障がいの子どもが親から虐待された事例を挙げながら、親子の捉え方や支援方法、学校と諸機関との連携等について述べています。昨年度開催した“保育・幼児教育セミナー”での講演を収録した「レッジョ・エミリア・アプローチ入門」も、子どもの捉え方と子どもへのアプローチの基本について述べています。人間・子どもを表面的な行動だけを見て、大人・指導者側の一方的な価値観に基づいて、できていないことをできるようにさせようとするのではなく、なぜそのような行動をとるのか、とらざるをえないのか、本当の願いは何なのか、まずはその内面や背景構造を読み解いていくことが求められています。そのためには諸科学の知見を学び、関係者全体のアセスメント力を高めていく必要性を感じます。

今年度、本学教育福祉学部・大学院人間発達学研究科では、愛知県総合教育センターや大学近隣の教育委員会と連携して、スクールソーシャルワーク教員研修に取り組んでいます。詳細は報告として載せていますが、ソーシャルワークの視点と方法を取り入れて、地域と連携して学校における諸問題を解決できるように、教員研修プログラムを開

発しています。2014年から子どもの貧困対策の推進に関する法律が施行された影響もあり、2015年度政府予算案では、いじめ・貧困対策として、スクールソーシャルワーカーの配置を現状の1,466人から2,800人ほどに拡充し、必要なすべての学校で活用できるよう（約1万人へ）今後段階的に配置を拡充していく計画となっています。学校教育と福祉が連携する体制が進んできています。

本研究所の研究所員はじめ、教育発達学科と社会福祉学科の教員が、本研究所の目的である「乳幼児から高齢者まで人間の生涯発達について、地域と結びついた教育福祉に関する共同研究」を進めていきたいと思っておりますので、今後ご支援・ご協力をよろしくお願い致します。